**■科目名**

基礎看護技術（バイタルサイン、フィジカルアセスメント）

**■授業の目的**

看護実践における基礎となる観察技術として、フィジカルアセスメントの知識と技術を習得し、患者の状態変化を的確に捉え、看護判断につなげる力を養う。

**■到達目標**

1. フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し説明できる。
2. 各アセスメント技術の基本的手順と観察ポイントを理解できる。
3. 患者の状態を多面的に捉える観察力を身につけることができる。
4. 得られた情報から適切な看護判断を考察できる。

**■授業内容（全10回）**

**第1回　フィジカルアセスメントの意義と目的**

* 観察とは何か、看護における観察の役割
* フィジカルアセスメントの定義と看護実践における重要性
* 主観的情報と客観的情報の違い
* 看護過程におけるアセスメントの位置づけ

**第2回　フィジカルアセスメントの基本技法**

* 視診・触診・打診・聴診の概要と適応場面
* 各技法の基本操作と注意点
* 患者に不快感を与えない技法の工夫
* 正常所見と異常所見の見分け方の導入

**第3回　バイタルサインの測定と評価**

* 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定手順と測定機器の扱い方
* 測定値の臨床的な意味と正常範囲の理解
* 異常値の初期対応の視点
* 記録・報告時の要点と看護記録への反映

**第4回　呼吸器系のアセスメント**

* 胸郭の形状と呼吸様式の観察
* 呼吸数、リズム、深さ、努力呼吸などの評価ポイント
* 呼吸音の種類と異常呼吸音の聴取（ラ音、喘鳴など）
* 呼吸困難や酸素化不全の徴候の理解

**第5回　循環器系のアセスメント**

* 心音の聴診方法とS1・S2の聞き分け
* 脈拍の性状（速さ・リズム・強さ）と末梢循環の評価
* チアノーゼ、浮腫、皮膚温などの末梢循環不全の観察
* 血圧変化や心拍異常の初期対応の視点

**第6回　胸部（心肺）の統合的アセスメント**

* 呼吸器・循環器系の相互関係の理解
* フィジカルデータをもとにした状態像の把握
* ケースを通して異常所見の読み取り練習
* 心肺異常時の早期発見と報告のタイミング

**第7回　腹部のアセスメント**

* 腹部の視診（膨隆、瘢痕、動き）の観察
* 腸雑音の聴診と分類（正常・減弱・消失・亢進）
* 打診による鼓音・濁音の判断と臓器境界の推測
* 触診の順序と圧痛、反跳痛などの評価
* 急性腹症を疑う所見の理解

**第8回　筋骨格系のアセスメント**

* 関節の可動域（ROM）の測定と筋力評価の基本
* 姿勢や歩行の観察、変形・拘縮の確認方法
* 骨折、捻挫、筋萎縮などの疑いを持つ視点
* 日常生活動作（ADL）との関連の理解

**第9回　脳神経系のアセスメント**

* 意識レベルの評価（JCSとGCSの違いと使用法）
* 瞳孔の対光反射・左右差の観察
* 運動機能・感覚機能の簡易チェック法
* 神経学的変化の早期発見の視点（麻痺、しびれ、ふらつきなど）

**第10回　状態変化の兆候と異常の早期発見**

* フィジカルアセスメントにおける「正常」と「異常」の見極め方
* バイタルサインや身体所見における危険なサイン（red flags）の理解
* 急変の前兆となる観察所見（例：意識変容、皮膚蒼白、冷汗、呼吸パターンの変化など）
* 異常を早期に発見し、報告・記録・対応につなげるための実践的視点
* チェックリストを活用したシステマティックな観察手順の紹介